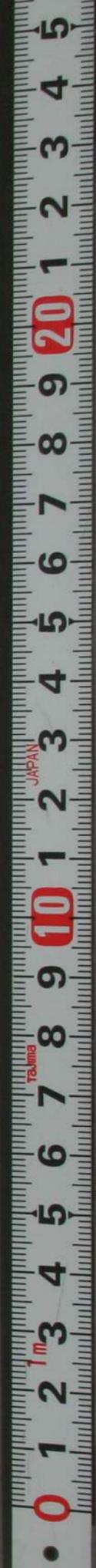


繪本通俗三國志

初編

九

特
〜 21
221
9



於  
221  
9

東京大學

子集

繪本通俗三國志初編卷之九

目

繪本通俗三國志初編卷之九

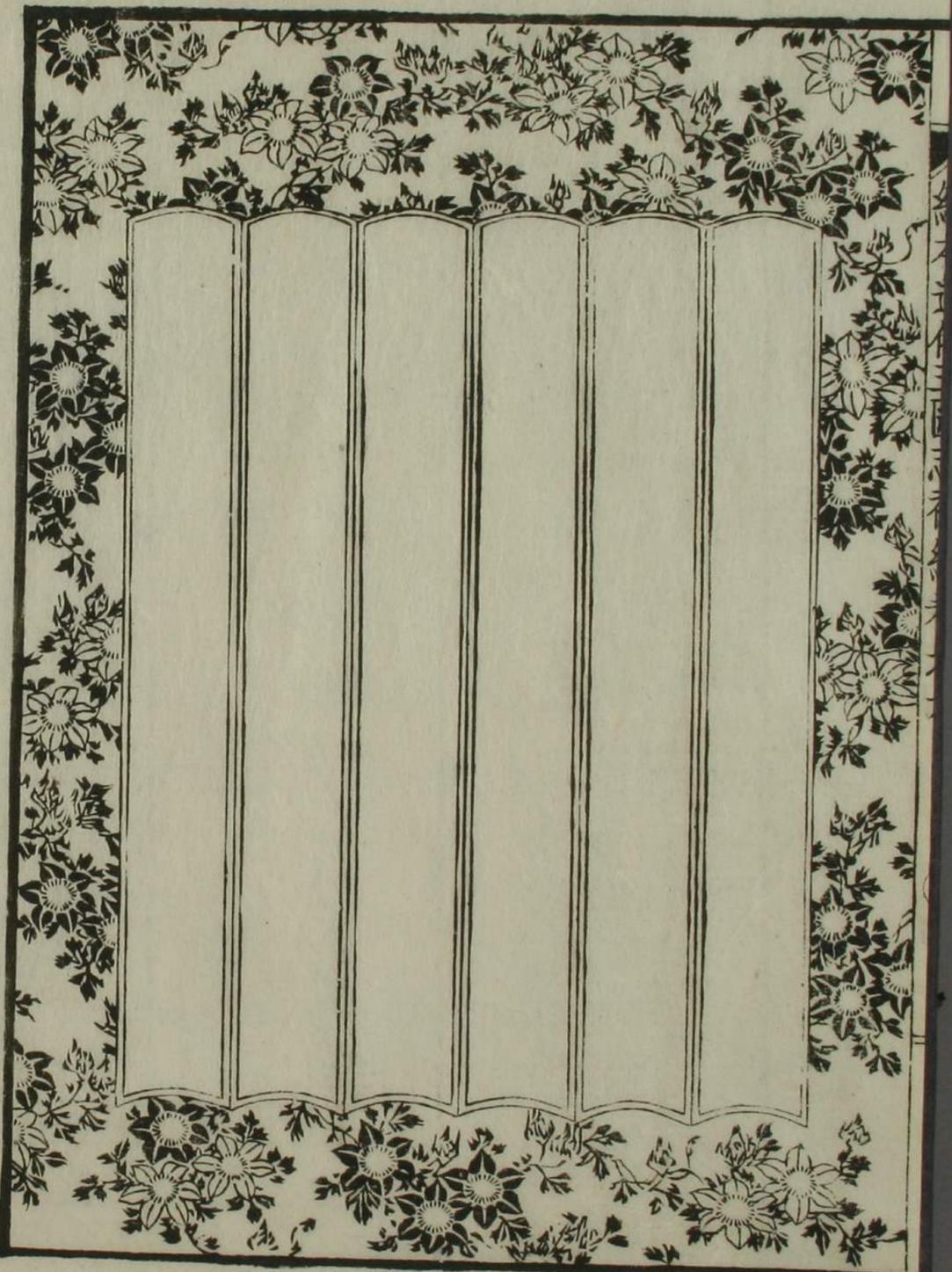
目錄

曹操定陶破呂布

李傕郭汜亂長安

楊奉董承救御駕





繪本通俗三國志初編卷之九

曹操定陶破呂布

徐州乃太守陶讓死。劉玄德その讓を受自ら徐州の  
 牧と稱する。其聞へありければ曹操野城ありて此の  
 き人怒りて。其父乃魯言いませ報せざるの陶讓を  
 ぞ死せり。玄德半箭の力をも費さざりて坐るがら徐州を  
 横領す。其父乃魯言いませ報せざるの陶讓を  
 市にさし父乃魯を雪べしとて。たてては打立んとし。荀  
 彧諫せり。昔漢の高祖は関中を保ち光武は河内  
 を據て根を深し。本を固めて天下を制す。是故に進む敵  
 は勝退をひそ固く守る。なまなく事と仕損じむ。本固きゆは

遂に大業を清む。今君事と兗州を以てめめひと。河清の  
とるも天の要害。亦昔の関中河内あり。を以て  
徐州と攻め。兵を起し。呂布虚を乗て兗州を  
取ん。兵を多く留め。兗州を守らむ。徐州を以て  
小勢よく攻め。萬一兗州を奪ふ。又徐州をも取らむ。  
はごも。君何く。身と容をかん。陶謙死を以て  
玄德よく國を守る。城中の軍民も其徳を以て命を  
とらん。願今兗州を以て徐州を取らむ。本を以て末を  
取安と欲と危を換ふなり。ねがひ。君よく思ひ。曹  
操が曰。ちちの山羊打はひて。兵を糧を以て。你よく  
いせん。荀彧が曰。陳乃國を攻取。兵を糧を以て。汝南

穎川より黄巾の餘黨何儀黄邵といふもの蜂起と承む  
つまび打向と攻平げ其貯と置たる物を取。味方乃資  
用となす。天子乃為忠とほ。萬民乃為害と除て  
す。天理の順が道の。曹操大よ。復侯惇  
曹仁を留め。兗州を守らせ。十二月に打立。陳の國  
と屠取。汝南穎川は向。是を以て黄巾の賊徒は何儀  
黄邵といふもの二人十萬余の惡黨とあはれ。居る。曹操  
が寄ると聞。羊山を打。出野は満山は漫ら。陣を取。こ  
い。惟る。狼群狗黨の溢る。なれが隊伍行列の備  
もる。紀律法度の定る。曹操よく見。打。と  
。強弓の精兵を以て。直先。雨の降。射さ

會不通用三國志刀劍卷之九



曹洪

截天夜叉

羊山又

曹洪と

會不通用三國志刀劍卷之九



截天夜叉

せき敵の色めくやを曲い草と命とと蒐散させると討く  
この敵とと賊軍多く亡びと。殊の子とらひつと。右往  
左往は落と行。曹操勝と乗と追蒐羊山と逼と陣と取け  
まら次の日賊の陣より身の長九尺あまうかる男の眼星のま  
く鬚長しと色あくまと黒き鉄の棒と提さげ馬よも乗じ  
と只一人とと山又音あげと名乗らる日お返天下と隠るん  
截天夜又何曼とつあつなり。曹操何くある快す  
出と勝負せよと呼つらるる。曹操らと見と。李典出よと下  
知と。曹洪とみ出ねと某と此賊を討しあへといふ。  
と馬より飛び下り刀と提さげと出向ひ只二人火と散と戦え  
ども二とあめよりと勝勝負さらふ分さざりたる。曹洪詐なりと

引退ぐに何曼急と追来ると引回しとはと斬れとす  
るむと返と刀と腿を斬るにこれ截天夜又何曼と沙の上  
は倒きて死と。李典兵を引く直ち賊軍は突と  
入四角八方へ蒐ちら。大将黄邵と馬の上と生取と降  
人よ出るたのねとと兵糧金帛ととととと賊將  
何儀の黄邵が討きたると見と力と失るひ。二三百余騎  
と引と葛波の堤を落行らる山の間より一手の勢討と出  
身の長八尺をりたる壮士の容白く勇偉ある。真先よと  
来るとと謙固の人と許褚字の仲康といふのあり路と塞と  
討止んとしなれ何儀大と怒り。鎗と拈と戦えんとととと許  
褚引組と馬より下よとととととと働らととととととと

掛たりたる相従がの百余騎の勢地は押しと降らんと請ふを。許褚もよく引回る曲韋の浩々ととるも何儀と追はる。討んとす。葛波の堤まで来りつゝあゝ喊と咄とほらりと一手の勢討ち出らる。你亦の黄巾の賊はとらなれを問ふ。許褚答へ。中らる。昔巾の賊百余騎と。こをこらる。擒よと曲韋が曰ふ。ならん。と。君は敵まはらざる。許褚あざ笑と曰く。何を何のゆえありと。人は敵まらん。你を。手の内は勝ば。その付は敵まらば。曲韋きもあつて戦とまはると討ち。二人辰の刻より午の下りまで戦ふも勝負さらん。さす。さす。息と休む。許褚又とめば曲韋も馬と出。申の刻より暮より夕まで火をとりしと戦ひも。たがひは馬はら

まれば勝負へ明日と約束と相引又退ぎさる。曹操も後陣はあつて此す。聞たよむ。諸大将と馬と飛と馳来り。次乃日許褚が来る。見よ。その白天神の威風凛々。りければ。乃内是者と味方よな。んと思ひ曲韋は討と。と授て。詠り負し退どけ。い。ら。と。曲韋二十余合戦ひ。馬とくして走りつゝ。許褚急し追来る。曹操と。なち。射手と出と散。射許褚も。見と退ど。曹操の夜陣の外五里。深き陷穴とほらせ。熊手と使。兵と伏あき。次の日曲韋は百余騎と付と戦ふ。許褚。と見と馬と飛して来りつゝ。曲韋戦ひ三台な。詠り。逃。許褚も。追と馳。思ひ。

馬に乗ながら陷穴に落へり。伏勢は熊手は掛と生取  
 曹操自らその繩を解衣服を脱ぎ名を問は許褚はた  
 えと下らる其の譙國の人許褚字仲康といふものなり。天  
 下乃乱をさけ一族に百人といふの辺に逃まら居さるるも動  
 じまら強盗はあびやうと安きとなす。ある村強盗入け  
 れが其手のものをとる大石をあはれさせと自ら散るは  
 賊徒を打ひしげれど。さうくは逃さる。其後賊と和睦  
 してある日其家の牛を盗る賊の米を代んと戻米をいふ  
 び来り賊徒牛を引てより如何なるん牛を逃さる  
 りなると其追はいと。二川の牛と左右の手と尾と持百歩を  
 うり引るは。賊徒その刀を怖またりん牛を取ばしと

うり去り。さうの曹操となすと無事あるとと得たりと語りけり。を  
 曹操白くを久々名を聞り。今もまた降らんや許褚がいつ  
 ねるは一族と共に降らんこそ。はのふ叔千人を率ひ来  
 りなると曹操大よよ後さび何儀黄邵首と路次に斬り  
 梟さす。汝南潁川をぐる平らぐ。時は興平二年夏  
 四月に軍を收め。山東に陣を取らる。曹仁鄴城より  
 夏侯惇を使としてやうら。ちうぶの汝南者を入る。伺は  
 るに兗州を守る呂布が大將薛蘭李封ホことぐ。中心に  
 りよとせん。諸處にお散と民と劫あう。城をまもる勢  
 こそは。曹操なり。とてやうら。推よせと。其備なきこと及  
 敵らんと。曹操の内より。曹操らるるを聞く。さうらをひきと

直ち亮州乃城を攻めしめせしむるを薛蘭李封あはくみせしむる  
俄るる勢をわはむべきやうなり。ばば城と出陣と  
張るば許褚らみを見し其ねがくる是敵と討て君乃  
因心と報せんといひまはる刀とまはると出れば李封鎗をひねつ  
て馬とまへ只一合を斬と落さる。薛蘭らみを見しとあはく  
ふのぎ一戦も及むと城へ逃入るとまはる壕の辺より李  
典一文字に路を遮ぎる。是ゆえ城へ入りあはくると鉅野を  
うめと走ると曹操路をよまきりと從事呂虔といひその  
ちちと馬と蒐よせよつ引く射たりけまば薛蘭ささすま  
まは洛と死しけり。はにみひと亮州とを曹操よつ馬を  
を程旦らみ此勢をわひし乗と直ち濮陽とひ取り

曹操と許褚典韋と先手と夏侯惇夏侯  
淵と左備へし。李典樂進と右備へし。于禁呂虔を  
後備と濮陽を發向と呂布らみを聞と兵ををぬえ  
自から出と戦らんといひを陳宮諫めとゆるる。輕と出  
まはるとなるを曹操亮州と取と。その勢はひさるる。ちちを  
らく味方の大将を待とぬへし。其後は戦ふひの呂布が  
曰く天下に懼るるものなり。誰かあはくと近ばらんと自  
から城外を討と出大音あげと曹賊らみと。大將をこ  
はしたるを呼りらるを許褚力とまはると討てり。呂布大  
は怒り二十余合戦ふひをば曹操らみを見しと呂布は中  
く一人と敵がし。典韋出よと下知となは典韋きよの肯



張飛  
呂布と  
門前  
の  
ま  
か

張飛



ど鉄の戦と提さけり。蒐出許褚と力をはらして。西傍より戦  
久む。呂布の事を事とせむ。又曹操が陣より。首侯惇夏  
侯淵左より蒐り。李典樂進右より。とて。けをこむ。呂布力あよ  
む。と。城中へ逃へんと。ゆる。城の上より。田氏を。ふ。呂布が。う  
ち。負た。と。見。壕の橋とひいた。り。る。呂布門を。開け。呼。ハ  
り。な。ま。を。田氏。矢倉。より。大音。あ。げ。と。る。を。こ。と。む。曹操。は。ふ。の  
城と。敵。ま。は。る。你。何。く。へ。も。落。行。とい。か。呂布。牙。と。り。こ。と。を。ら  
く。罵。り。と。立。た。ま。と。む。と。と。と。や。う。な。り。り。定。陶。と。さ。し。と。落。行。り。  
陳宮。ホ。の。事。の。変。と。と。と。呂布。の。妻。子。一。族。と。た。と。け。と。東。門。より。逃  
を。出。る。を。曹操。は。ら。な。濮。陽。城。と。取。と。田氏。の。旧。ヨ。の。罪。と。宥  
し。士卒。と。勞。ら。ひ。百。姓。を。安。ん。け。と。と。と。劉。擘。と。ら。る。呂布。の

猛き虎あり。今さし。い。い。力。と。は。ば。此。を。を。乘。と。追。討。し。及。び。く。  
曹操。是。義。と。ら。う。べ。你。ま。と。よ。く。守。ま。と。と。自。ら。大。軍。を。引  
と。定。陶。へ。追。と。行。呂布。の。定。陶。城。へ。入。と。陳。留。の。太。守。張。邈。を  
の。弟。張。超。と。敗。軍。と。あ。は。し。折。と。兵。糧。の。用。意。調。の。ら。と。ら。と。  
高。順。張。遼。ホ。と。諸。處。を。分。ら。と。兵。糧。と。運。送。せ。と。此。時  
曹操。が。大。軍。と。と。に。推。よ。せ。城。を。四。十。里。へ。と。陣。屋。を。り。ま。と。  
青。麦。を。刈。と。兵。糧。の。資。と。と。と。聞。へ。と。呂布。急。に。よ。ふ  
し。と。せ。ら。る。曹操。が。陣。ろ。く。こ。ら。と。深。く。ま。げ。り。た。る。林。あ。り。ま。と。と。  
と。伏。勢。か。あ。ら。んと。疑。が。の。と。と。と。引。り。へ。け  
り。曹操。は。ま。と。ま。り。と。諸。大。將。を。向。と。ら。と。呂布。戦。う。と。じ  
と。引。退。と。を。し。林。の。内。に。伏。勢。か。あ。ら。んと。疑。が。か。な。り。と。と。

を量る。林の内は少く旗をうりて結はけ。西方方の堤は去千を  
水るけ。精兵を其陰に伏せ。明日呂布来ると。林  
は火を掛べ。その事を思ひよる。益々討て出で。敵は後と圍  
る。呂布はうす。橋を断る。陣屋の内は鼓と打。五  
十人を召め。近辺の百姓をうり。鼓と打。あめを叫ん。ど  
大勢あり。体をかじむ。呂布はむ。引退せ。陳  
宮と計を議する。陳宮は。曹操の詭計の計を極めと  
多し。輕く仕ぬ。大なる破をあらん。呂布は。何を  
曹操と怕まん。明日林は火をほけ。彼は伏勢を焼破  
らん。次は日陳宮高順を召め。城を守らせ。自ら大軍  
と引。討て出。林の内を望み。旗幟少く立。風は

ら。かつり。見へ。兵を驅。大なる。四方より火を掛  
と。とぐ。焼をら。ひ。敵一人も。陣屋の内。鼓のよ  
え。大なる。喚き。は。疑。追。討  
る。陣屋の後。一手の勢。出。見。急。追。討  
ん。合。砲。提。陰。伏。勢。一。度。大。將  
り。復。侯。惇。復。侯。淵。許。褚。李。典。樂。進。曲。韋。六。騎。の。大。將  
馬。討。呂。布。大。なる。返。走。り。  
大。將。成。廣。と。樂。進。射。ら。後。討。る。戦。は。ら  
ど。陳。宮。の。事。を。聞。く。孤。城。守。り。早。く。走。る。べ  
と。高。順。と。妻。子。老。小。を。け。る。ま。さ。と。落。行。く。  
曹。操。勝。を。乘。て。城。中。に。攻。入。る。勢。を。破。竹。の。ぶ。に。太。守。張

逸ハシテ。袁術が方へ落行弟の張超ハ自害ト  
焼死シぬ。山東の二境も。曹操ハ從ひし。民と安んト城と。諸國の勢とあはれり。

李催郭汜乱長安

呂布ハ定陶と追出さ。諸大將を引。曹操と唯雄と決せん。陳宮曰く。劉玄德徐州と領と。行と此人を頼と。勢ハ大なり。戦ひを。呂布曰く。何と身と安ん。宮曰く。劉玄德徐州と領と。行と此人を頼と。氣力と中なひ。又兵と起。呂布曰く。

が直ちハ徐州ハ赴。世の英雄あり。呂布ハ虎豹あり。引ハ。布ハ兗州とせむ。徐州と得。ま。城外三十里。董卓と討。李催郭汜。徐州の圍と。今。曹操が討。再ハ漢室。

と貞とべしといひたまふが玄徳の曰く。陶謙あらざる。逝去しと。  
徐州と領とべき人あり。さひらるるの將軍はのち東りあか。  
古くより徳あり人よる國と譲る將軍ねがくも是國と領  
しめく呂布ら内大よまはさび。ほらく見らぬ玄徳の後よ  
立たる。関羽張飛目といふらと。ととよ劍を抜んとけり。気色  
あつらるる。佯りぞ打ちらひ。とらるる某一人の勇夫あり。いほ  
くんぞとよ。此國と治むることを得んとひなれ。玄徳再三譲  
りぬ。陳宮うららぬあつと強賓安能壓主といふ言あり。  
玄徳公より疑ひとる。ゆめかなと云々。玄徳酒宴を  
設けし。持たしめ。か呂布客屋よりつぎと。次り日玄徳とよ。あき  
らまら。関羽張飛トらるる呂布昨日ととの徐州とらるる。

あり。とらるる。びららるる。びららるる。行ゆめ。玄徳の曰く。實のらと。以  
て人を愛む人なんど。とらるる。背くんやと。はるる。呂布の館よ  
へぬ。か呂布酒宴と設けし。後堂よ請ト。妻女子と出と。再  
拜せさむ。とらるる。玄徳殷勤よ禮とかな。か酒半酣よ及  
ん。呂布玄徳の手と執。とらるる。此あよ身と寓  
て賢弟の恩と受ると。とらるる。張飛をを聞と目といふらし。  
劍を抜と。とらるる。兄へ金枝王業漢の天子。乃至親を  
り。你へと。とらるる。人家の奴。とらるる。兄と賢弟と。とらるる。我決  
よ。二百合戦。とらるる。ひり。とらるる。玄徳急よ。住め。かへ。関  
羽引と。外よ。出と。玄徳笑と。とらるる。弟酒と。とらるる。狂言と。放  
は。將軍あ。とらるる。か。とらるる。宜ま。へ。呂布黙然と。とらるる。言と。

新編 太平御記 卷之九

志がらくあつて玄德より呂布自ら門外に送り出さる。張  
 飛馬と躍らせ、鎧とよみなえと。呂布出よ。さきからさく二百  
 合戦ふんと呼わりつる。と。玄德引く。りゆりゆり。次の日呂布来  
 り。暇とよみ。何万へありと。む行かん。と。玄德あひま  
 止め。さき弟の並禮とある。さくさくけあかなと。張飛を召  
 て呂布と持たせ。さひかへ張飛目と。さしと呂布と。馳と。  
 牙を齒て立しり。と。玄德せん。さく。此さく。さく。小沛と。  
 一はの城あり。と。と。我ホ。さく。さく。分内。さく。さく。将  
 軍。さく。さく。行。と。守。り。さく。軍馬。兵糧の備も。あら。は。用意  
 ひと。さく。さく。呂布。拜謝。と。小沛の城。さく。さく。龍。り。さく。此。と。曹  
 操。が。汝。南。潁。川。の。賊。徒。と。平。ら。げ。さく。さく。長。安。へ。さく。さく。

朝廷をさく。さく。と。賞。と。建。德。將。軍。費。亭。侯。は。封。ト。の。か。李。傪。郭。汜  
 とい。め。逆。威。と。ゆ。め。の。と。朝廷。の。上。は。横。行。し。よ。は。ば。の。さく。は。政  
 と。行。る。め。さく。さく。さく。百。官。さく。さく。其。威。と。拍。と。言。と。出。さ。さく。さく。さく。

今曹操四十萬の兵とあり。謀臣武将数百人を任用。さく。さく。

今その勅し。逆臣と伐し。め。さく。社稷再び。與り。と。天下のさく。

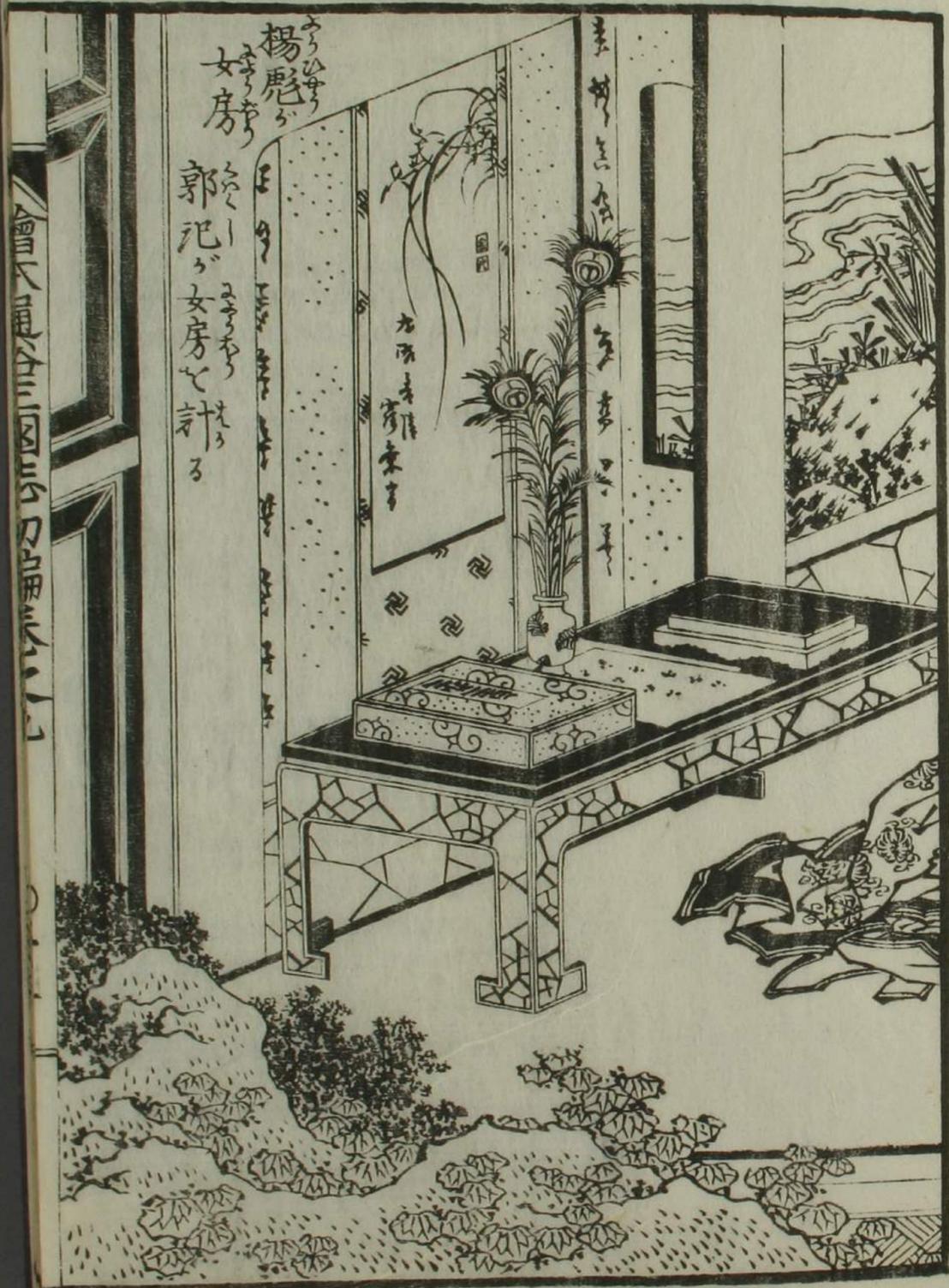
さく。甚。と。さく。帝。御。涙。と。さく。さく。宣。ま。さく。さく。朕。さく。さく。

李傕郭汜が辱し。め。の。あ。め。て。惡。虐。の。は。な。さ。さく。さく。董。卓。より  
 も。さく。さく。たり。日。夜。を。苦。し。め。と。行。坐。さく。さく。安。ら。さく。さく。朕。さく。さく。

の。さく。さく。思。へ。さく。さく。は。さく。さく。と。べ。の。計。と。さく。楊。彪。が。曰。く。臣。一。は。の。計  
 と。あり。さく。李。傕。と。郭。汜。と。同。士。軍。と。さく。さく。と。の。後。は。曹。操

と召ば天下忽ち平らなりん帝問て宣まらぬ你いふ計よ  
 とぞ用ひん楊彪曰く臣が妻とひとる郭記が女房のあへ  
 はば反間の計とて用と二人の賊も自ら害となすやん帝の  
 たまはく你ホいふも計よとせしめて朕が苦くもさし入と密詔  
 としめひひまの楊彪の家より其妻よ計とて教て郭記  
 があはれしむる心妻よ計と受といはものぞと郭記が女房  
 とそのころしてひそかに依諾郭將軍はほねよ李催の夫人は馴  
 とめむひそたがひは情あはく通ひぬがよりぬぬとせしむれ  
 女房大よぶと泣きあやしが動ゆとせよ夜あはれまて回りぬ  
 をほねよ元なく思ひぬとてさうもものありさやすも知  
 せぬかたりとて叔日と経るあはれ李催が方より使あはれ郭記

まねれたるを女房諫うとやらん李催のあはれしむる人あり  
 古より二雄かたび立どとせしむる酒後毒あることをいふ  
 將軍と善とせしむるゆゆのんうかたぬ油断しぬかたのひれを  
 郭記さの用ひど何条李催ささやうのふあはれきこのいれを  
 よ使とも行暮よあふんと回りたり其後李催が方より食  
 物を送りたるを女房ひとて侍婢の命と毒を入らしむ  
 郭記らとを食いんとする女房諫めとやらん外より来る  
 食とあらせしめて啖とやあはれとせよ大よあはれせしむる  
 ちまらぬ死たり郭記らとせしむる疑ひと起しるあはれ日  
 李催は誘あると出と終日は酒宴一夜入と回りたるを俄  
 く腹の痛甚とせしむる女房とせしむる毒よあはれりつとせしむる



急<sup>きう</sup>に糞<sup>ふん</sup>汁<sup>じゅう</sup>と飲<sup>のむ</sup>せむ。嘔<sup>おう</sup>吐<sup>と</sup>しと痛<sup>いた</sup>む。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>大<sup>だい</sup>に泣<sup>な</sup>く。李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>と共<sup>とも</sup>に事<sup>こと</sup>と圖<sup>とら</sup>り。たぐひをいせむ。長<sup>ちやう</sup>富<sup>ふ</sup>貴<sup>き</sup>と受<sup>うけ</sup>ん  
 と思<sup>おも</sup>ふ。結<sup>むす</sup>句<sup>く</sup>を言<sup>い</sup>せんとす。早<sup>はや</sup>く手<sup>て</sup>と出<sup>い</sup>でんとす。  
 毒<sup>どく</sup>害<sup>がい</sup>せらる。手<sup>て</sup>下<sup>か</sup>の勢<sup>せい</sup>と調<sup>てう</sup>ふ。李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>と討<sup>う</sup>ん  
 と用<sup>よう</sup>意<sup>い</sup>となす。李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>此<sup>こゝ</sup>す。聞<sup>き</sup>く。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>はひて。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>は  
 られ。是<sup>こゝ</sup>のどよめ。急<sup>きう</sup>に討<sup>う</sup>て首<sup>くび</sup>と取<sup>と</sup>れんと兵<sup>へい</sup>と引<sup>ひ</sup>く  
 推<sup>おし</sup>する。兩<sup>りやう</sup>旁<sup>ぱう</sup>の軍<sup>ぐん</sup>勢<sup>せい</sup>。端<sup>たん</sup>々<sup>たんたん</sup>長<sup>ちやう</sup>安<sup>あん</sup>の城<sup>じやう</sup>下<sup>か</sup>より出<sup>い</sup>で入<sup>い</sup>り乱<sup>らん</sup>て  
 さんぐは戦<sup>せん</sup>ふ。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>の弟<sup>てい</sup>李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>の兄<sup>あに</sup>子<sup>こ</sup>李<sup>り</sup>暹<sup>せん</sup>といふ。その  
 叔<sup>しやく</sup>千<sup>せん</sup>の精<sup>せい</sup>兵<sup>へい</sup>と率<sup>りつ</sup>て内<sup>ない</sup>裏<sup>り</sup>と圍<sup>ゐ</sup>む。車<sup>くるま</sup>三<sup>さん</sup>輛<sup>りやう</sup>と以<sup>もつ</sup>て一<sup>いつ</sup>は帝<sup>てい</sup>と  
 乘<sup>のり</sup>一<sup>いつ</sup>は伏<sup>ふく</sup>皇<sup>わう</sup>后<sup>ごう</sup>と乘<sup>のり</sup>一<sup>いつ</sup>は賈<sup>か</sup>詡<sup>じゆ</sup>左<sup>さ</sup>靈<sup>れい</sup>二人<sup>ふたり</sup>と乘<sup>のり</sup>て。後<sup>こう</sup>宰<sup>さい</sup>十  
 門<sup>もん</sup>より出<sup>い</sup>で内<sup>ない</sup>侍<sup>じ</sup>官<sup>くわん</sup>女<sup>にょ</sup>とあはさる。歩<sup>ふ</sup>跣<sup>せん</sup>を逃<sup>のが</sup>れ迷<sup>まよ</sup>ひ

郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>は兵<sup>へい</sup>を引<sup>ひ</sup>く。後<sup>こう</sup>宰<sup>さい</sup>門<sup>もん</sup>に馳<sup>ち</sup>  
 来<sup>き</sup>り。帝<sup>てい</sup>と取<sup>と</sup>れんとす。路<sup>じゆ</sup>とす。切<sup>き</sup>とさんぐは射<sup>い</sup>る。後<sup>こう</sup>は  
 死<sup>し</sup>す。麻<sup>あ</sup>の汁<sup>じゅう</sup>を飲<sup>のむ</sup>む。李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>跡<sup>あと</sup>と追<sup>お</sup>て。後<sup>こう</sup>は  
 掩<sup>えん</sup>殺<sup>ころ</sup>す。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>は打<sup>うち</sup>負<sup>まけ</sup>て。逃<sup>のが</sup>れ。李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>家<sup>いけ</sup>ま  
 李<sup>り</sup>暹<sup>せん</sup>天子<sup>てんし</sup>を引<sup>ひ</sup>き。火<sup>ひ</sup>とあせ。烟<sup>け</sup>と冒<sup>あ</sup>す。李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>家<sup>いけ</sup>ま  
 入<sup>い</sup>り。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>は兵<sup>へい</sup>と引<sup>ひ</sup>く。内<sup>ない</sup>裏<sup>り</sup>に入<sup>い</sup>り。宮<sup>きやう</sup>嬪<sup>ひん</sup>官<sup>くわん</sup>女<sup>にょ</sup>と  
 一<sup>いつ</sup>度<sup>ど</sup>火<sup>ひ</sup>とけ。宮<sup>きやう</sup>殿<sup>てん</sup>樓<sup>ろう</sup>閣<sup>かく</sup>一<sup>いつ</sup>宇<sup>う</sup>も残<sup>のこ</sup>らざり。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>は  
 次<sup>つぎ</sup>の日<sup>ひ</sup>天子<sup>てんし</sup>の李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>家<sup>いけ</sup>ま囚<sup>とら</sup>む。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>は  
 推<sup>おし</sup>する。李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>打<sup>うち</sup>て出<sup>い</sup>で戦<sup>せん</sup>ふ。射<sup>い</sup>ちがふ。矢<sup>や</sup>の兩<sup>りやう</sup>も  
 鐵<sup>てつ</sup>炮<sup>ぱう</sup>と並<sup>なら</sup>び。蝗<sup>しやう</sup>の蟲<sup>むし</sup>がす。郭<sup>かく</sup>汜<sup>ふ</sup>は  
 打<sup>うち</sup>負<sup>まけ</sup>て退<sup>ひ</sup>く。李<sup>り</sup>傽<sup>か</sup>天子<sup>てんし</sup>と車<sup>くるま</sup>を乗<sup>のり</sup>て送<sup>おく</sup>り。郿<sup>び</sup>塢<sup>う</sup>

城をへちし帝のころ箭のさそと聞て魂と失なり膳とひやむ  
 ひ伏皇后の御涙と衣とさそ顔とむ擡むと御車とさ  
 鄙鳩と著られ李暹一間ある處は帝と皇后とをさ  
 びく番と付く内外の出のとささるるへ近侍の臣とを飢  
 ふくむ帝人と出ると李催と米五斛牛骨五具と乞ふと  
 めめひささか李催大といると曰く朝夕飯と献すのらへ米  
 と米と何もう仕ゆかそと口ひららるる魚肉と献すは帝  
 さと見あふこの腐り損と臭きと甚とささるるれを  
 御涙とさると何とそ是のどと朕を欺むきとと宣すひらるを  
 侍中楊琦ひさと奏と李催の辺境の夷とをささるる身いさ  
 とのなれども今日とと背逆の罪と悔と快の色なり御駕と

遷ると黄白城へ行幸するをらんとささるる辱しめと忍  
 びあへるも其罪と責めかなとひたれと帝あえと吞と哭き  
 むかこまに近臣奏と誰とささるる一手乃軍勢とをささるる  
 天子ととひなるをいさ沙汰ありと告げをささるる帝人と出ると  
 見せしめぬぬ郭記が勢なりと中後帝いさく夏とひぬぬ  
 門外は喊のさそ天子とひと鼓のさそ地と動りす李催  
 兵と引く御座の廻りと守護しなす郭記馬と出ると呼  
 かりさる逆賊李催何ゆ天子をささるるやとささるる  
 まる李催が白と帝と守護しとささるるあり你天子と向  
 ところと引く真の逆賊とあらぬや郭記が白く你帝と此と  
 推らぬ守り守護とささるる何ゆととささるるやと出るとささるる

多き人と悩ますんすうの你と多きと獨身よと勝負を決  
 せん。郭記さきま望むるりそと鎗と提さげて出られ李  
 催も刀とすしと馬と出。十合あまり戦ふふは太尉楊彪  
 馬と打と馳来り。兩將をくら戦ふと休むへまは群臣と  
 とむと和睦とさあんと呼りられ兩方兵と収めと引退と  
 楊彪朱馬朝廷の大臣六十余人を伴ふ。郭記が陣  
 中に行。和睦となと戦と休むへまは郭記兎角の蒼  
 いと兵と下知と群臣と捕へむ。群臣あはれた伯を是如  
 何る故と問ふ。郭記は天子と捕へむ。天子と捕へむ。質と  
 と。方よ群臣と質とせん。楊彪言をわらと一人の天子と劫

やうし。一人の群臣と捕へむ。行ひとひりまが郭記  
 劍と抜と斬んといひを中郎將楊密急にあはさるる。郭  
 え。郭記劍と収め。楊彪朱馬二人とむる。出。その餘の群  
 臣とむとくそく人か楊彪外よ中と朱馬中ら我亦社  
 稷の臣と。君と扶け世をさるる。天地のあひど  
 よかんど生かる甲斐あらん。相ひとひとたは哭き昏絶  
 と地よ倒るるが家よりと朱馬の病と強と死よけり。ま  
 より李催郭記毎日兵と出と及戦ふ。五十余日よ及び  
 り。兩方の討死道路よ横たがり。あさる屠所の肉のま  
 帝の日夜御涙とながと哭きさるる。侍中楊琦  
 ひとくに奏と。臣よ賈詡がを見ら。李催は事と

益二の三気名しられども其のいも君とをもて陛下御心を  
残さども実を以て告めく彼より李催と諫むべし帝點頭  
して君のあや良ありて賈詡来りて帝近侍の人と退  
どけく自ら地上に再拜しめ賈詡大なる泣き伏し  
臣は罪萬死かな輕しといひて帝宣まひて漢朝と  
あつて命と扶けよ賈詡頭首とすらるる臣がら  
ほどは情なく仕なるとあらむ今あらくあひて忍び大臣  
は計とをかさんと退どひて出まらり勢ありて李催  
かたき刀と腰に横てえ劍と腕よりけ鉄の鞭と手は提さげと  
あはにづく来りて帝大に怖あつてをみひと御顔のいろ土  
のどし内侍官直事かたを思ひて又劍と帯て帝の御側よ

立ちて李催とを怖れくやありて郭汜惡逆を長と主上  
と切やるとんを其が守護をもれあらむ大なる難あり  
むわんとひるを帝手と拱て你を扶くる乃功ありしこと  
謝しむへ李催曰く陛下下りたまひて賢聖乃君なりよしく龍體  
と保ちぬへこと退どひて外に出手下の大將と台で今内侍官  
劍を帯て立たるを害せんとの意とらんかまを問ふ賈詡  
答に何条さるゆゆわん軍中かまを不用んのかをるまじ  
李催よまをよすりて疑がらむと  
揚奉董承救御駕  
帝日夜御心を苦しめよひ僕射皇甫鄴の辨舌は巧まよと  
あるも李催郭汜と同郷のこのなまをば行くと二人の中と和睦せし

めよと命しめぬ皇南鄴。まほ郭汜が陣を行く。詔を迷なす。郭汜が陣をなす。天子を悩ます。李傕の天子を旧のどく出さる。群臣を放し。戦を休ん。皇南鄴直ち李傕が陣を行く。西涼のその。將軍と同國なるを。天子を。和睦の。郭汜の。勅命。順。將軍。李傕。破。後。四年の。朝廷の政。三輔の郡縣平安。天子。郭汜の馬と盗む。虜。西涼。育。戎の軍兵。郭汜が勢より勝る。

郭汜いま釋臣と囚く。質と。郭汜が方と引人。皇南鄴色を止。昔。有。人。強。郭汜が首と高き竿。是。思。孫権と握り。宗族罷。傲。困。家。孫。至。極。天子と劫。質。重。輕。天子。

你を使とて。まゝに耻を与へぬ。まだ你が首を斬て。その  
 後天子まゝに後せん是大夫夫のんちなり。まゝに斬んじけ  
 るを騎都尉揚奉とて。郭記いませ滅びざるに勅使を  
 遣はし。郭記四方はぬ。勅使を斬たる逆臣を伐とい  
 はん。まゝに天下の諸侯。郭記を助け。將軍一人逆臣の  
 名を得かかんとい。賈詡もはよ。諫め。ゆえ李催怒りを推へ  
 放し。賈詡とて。外に失はれ。皇甫鄴大音あや  
 と罵り。李催勅命を用ひ。漢の天子とて。漢を思ひ急  
 慕逆のんちを呼り。侍中胡遷。まじき。思ひ急  
 漢を思ひ。李將軍御辺を用ひ。何とて。並  
 用の言とて。自滅を求めぬ。皇甫鄴大は怒と曰。你の朝

廷輔佐の大臣。まゝに。諸らひと吐出せる。まゝに。漢  
 の禄と食へり。君をば。臣死と。當然の理  
 なり。まゝに李催とて。天命のまゝに。何のふ  
 と。李催と罵り。帝は。は  
 と聞ひ。思ひ。召い。使と馳。皇甫鄴と  
 西涼へ。李催が手下の勢力の大半。西涼の兵あり。け  
 れ。皇甫鄴。皇甫鄴大逆無道とて。天理よと。内  
 漢の天子とて。位と奪んと。聞。まゝに。折ぬ  
 安ら。逆臣は。從。つ。折ぬ  
 賈詡ひ。諸軍勢。告。天子。你。忠義と。り  
 玉ひ。暇を賜。本國。回。恩賞と待。と。

諸軍此を李傕と死心ひる多くと拔く落行たり。曰と  
 経る皇甫鄴を西涼へ回りつと告るものありき。李傕大  
 怒りて虎賁郎王昌を遣付くらせむ。昌も皇甫鄴を忠義と感とむなしく中途より引く行  
 方るく失つてとどりて。賈詡ひる帝を奏しと李傕も  
 ちや官職と授けよと帝ちて從がひく。大司馬  
 封じぬ。李傕はねよ左道の妖術とある。軍中巫女  
 と召く鬼神と敬まひ祈りたる。今大官を得てらよ。巫女  
 巫女の鬼神を祈りて験ありと。重く巫女を因賞と与  
 へく士卒を恤れむと。騎都尉楊奉ら怒り宋果  
 とひかき私語る。王をホはむ。十死を出と一生は逢矢よ

中り石を打ちて戦ひてかた。あられども巫女も及ぶ  
 といひまを宋果中り唱や李傕とあら。漢の天子を  
 ともへべ。楊奉ら曰あられ御辺の中軍あり。今夜の  
 二更に合圖の穴をかげよ。外ありと。及入べと約と  
 定めと相り。いかにしりらん。李傕らと聞つけ  
 ま。宋果と捕へく首と刎たり。楊奉外あり。時刻  
 もるのぬと相待。合圖の穴もいんぐりなれ。あや  
 と。思ひひる。李傕急よ。及東あり。手  
 楊奉大よ。及入乱ま。四更のふらま。戦ひる。手  
 勢若千討ま。ねが。叶と。落行たり。此より李傕  
 が勢不ひ次第。喪ら。郭汜日夜戦う。たがひ討ま

新編通鑑三國志卷之九

將軍兵多。血。血。血。溝。溝。溝。死。死。死。山。山。山。
 陝西より張清大軍を引く。馳上り李催郭汜が方便
 と遣はす。御使二人と董卓の讐を報じ。志を併せ
 改む。今同士軍と仕出。天子百官
 と擄はす。所行。軍と休。和。和。
 異儀。我。大軍。
 李催郭汜一儀。
 張清表を上。帝と弘農まぐ還。
 帝大。弘農まぐ還。
 張清使と遣。郭汜が囚。

百官を放し出させ酒肴を送りて持る。李催ハ御車と
 求め出し。行幸乃用意をな。旧の御林の軍を。
 其夜まぐ新豊まぐ到り。次日の昏方。霸陵橋を過
 め。時秋の半。吹風も身入。御車と。
 嗚のあえ地と動く。百騎の兵橋の上。
 車の見ゆる何。呼。侍中揚琦馬を乗。
 漢の天子還幸。御車。狼藉。
 聞。大将。二人。
 郭汜が命を受。是橋を固。御幸の路を清。非常。
 めん為。天子。見。

綱目通鑑三國志統緒卷之九



徐晃  
大谷で打  
振て崔勇  
馬より斬て  
去とす

崔勇

繪本通谷三國志初編卷之九

〇三十四



徐晃

繪本通谷三國志初編卷之九

〇三十三

楊琦（中ノキ）たぐ御車（ミクルマ）の簾（まゆ）をかげし帝宣（ミカドノイハ）まひり朕自（ミカドノミ）ら  
 らまあり。你（キミ）ホなんど退（ひき）ごらざる。諸軍（シヨクン）らまを聞（き）こ一同（イツドウ）は萬  
 歳（マンサイ）を喚（よ）び左右（サウヤウ）まられ退（ひき）ごきられが御車（ミクルマ）まを橋（ハシ）を  
 とらたり。橋（ハシ）を固（か）めたる勢（せい）がごも馳（せ）入りて。右（ミダマ）のあもむき告（つが）  
 へるが郭（クワク）記（キ）大（ダイ）は怒（いかづち）と曰（い）ふを天子（テンシ）を奪（うば）ひ取（と）り再（また）び郭（クワク）鳩（トビ）城（シヤウ）  
 竹籠（チクロウ）り。又（また）天下（テンカ）を手（て）に握（にぎ）らんと思（おも）ふ。你（キミ）ホは橋（ハシ）と守（まも）らしむ。何（なに）と  
 と御車（ミクルマ）と通（と）しるぞ。二人（ニヒト）乃（すなは）ち大将（ダイサウ）トク其（その）ホた橋（ハシ）と守（まも）まを  
 をうり仰（おほ）せと兼（か）り帝（ミカド）と奪（うば）ひなれとら本（ほん）意（い）を知らざるゆへに。  
 路（ミチ）を閉（し）ひて通（と）したり。郭（クワク）記（キ）いよく怒（いかづち）り。まを張（は）濟（せい）と欺（あや）むひと  
 此（この）大事（ダイジ）と企（くわ）むはるは。いふを通（と）しるぞとて遂（ついに）は二將（ニサウ）の  
 首（くび）と刎（き）急（きゆう）は兵（へい）を率（しゆ）し追（お）うら。御車（ミクルマ）まを華陰（ケイン）縣（ケン）とて  
 追（お）うら。御車（ミクルマ）まを華陰（ケイン）縣（ケン）とて

後（のち）より喊（こゑ）りらえありて追（お）手（て）の勢（せい）間（ま）ちうり来（き）り其（その）  
 車（クルマ）まを呼（よ）びて帝（ミカド）大（ダイ）は怖（おそ）まむひと狼（オウ）の喉（ノド）を  
 のれと。又（また）虎（コ）の口（くち）は遇（あ）ひと宣（のたま）へ近臣（キンシン）皆（みな）泣（な）く。付（つ）は傍（かた）  
 けらる山（ヤマ）乃（すな）ち内（うち）は鼓（つづみ）のあえ天地（テンチ）と動（う）く。一（ひと）鹿（カ）の軍馬（クンバ）蒐（しゆ）いど。  
 大漢（ダイカン）の楊（ヤウ）奉（フウ）書（ショ）を旗（はた）とて郭（クワク）記（キ）が勢（せい）は打（うち）むる元（げん）  
 来（き）本（ほん）子（し）催（さい）とて南（なん）山（サン）は居（い）たり。天子（テンシ）と扶（たす）けを  
 らんこと。千余（センヨ）騎（キ）と率（しゆ）し来（き）まらるり郭（クワク）記（キ）を見（み）て大  
 といり只（ただ）踏（ふ）むふりてとよむ。崔（さい）勇（ゆう）といふそのと真（ま）先（せん）とてあ  
 りれば楊（ヤウ）奉（フウ）陣（ジン）より徐（じゆ）晃（かう）とてまらりやと呼（よ）びて大將（ダイサウ）一（ひと）騎（キ）蒐（しゆ）  
 出（い）大方（ダイホウ）を濟（せい）とて山（ヤマ）崔（さい）勇（ゆう）を馬（ば）より倒（た）さぬと斬（き）と落（お）し。なち  
 大勢（ダイせい）の中（な）は馳（せ）入（い）り。縦（た）横（横）並（な）得（と）は蒐（しゆ）り。郭（クワク）記（キ）さんご

乱を以て二十里あり引きあがり。揚奉盛と却り。御車の前  
 へ頓首し、帝自ら車より下りて揚奉が手と執、徐の  
 危を以てとてひしと。朕す、肺腑の銘とてまされど、其  
 揚奉再拜して因て謝す。帝又さまた敵の大將と斬り、大勢  
 を破りしもの誰人ぞと御尋ありければ、揚奉一人の大將と車  
 の前へ拜せしめ、河東揚郡の人、徐晃字の公明と  
 してそのありと奏し、御車と守護し、華陰の寧輯といふ  
 といひ、徐晃を六將軍段熲といふもの衣服飲膳を献ぎ、  
 是夜の揚奉が陣に御車と宿し、夜明けに打たんと  
 ころん。又郭汜が大軍は来り、四方をかみんと。さんぐは戦ふ  
 徐晃勇と振る防くといえむ。小勢あれば、力ほらむと。

危く見へる。一軍東の方より喊のり、賊徒を  
 十方に蒐らる。徐晃救の勢、東まき、さんぐは力と  
 奮て追立く。ひしと。郭汜大半討きて、右往左往、散  
 乱と。帝虎口をゆる御心地と。ともく、此大敵を追らば、  
 朕とてひしと。誰人ぞと宣まふ。一人錦の袍を被り、御  
 車の前へ再拜し、まされを見せ、董貴妃の父董承あり。  
 後馳の官軍を引来り。さひは、賊軍と討破りぬ。奏す、  
 帝大に歡感あり。諸愚の難儀ありしと。語り、御涙をなご  
 ろ。董承奏し、臣揚奉と力をあはせ、是賊を滅ぶ。と  
 御運とひらき、徐晃と。御車とゆるめ、弘農まき、入る。  
 郭汜の賊軍を收め、引き、李傕とあふとゆるめ、御辺

とるもこと元來根心むべしをよるなり。一旦事の亦まよるたがひに合戦まよるなり。今とぞと和睦せし上の旧のまよりに交りて結びとるに身なりととるまよる。天子とぞと弘農まよる入るひ揚奉董兼御車と守護しと手いさく戦ふ。まよる山東まよる要害またとるまよる。國この諸侯とあはれと我ホと伐の我ホ朝敵の名と得と詐り力とあはれととる。九族と滅ぶとるべし。いさ計らひのまよる李催白今張清長安まよるといぬと動るまよる御辺と兵ととるまよる。弘農まよる推まよるまよる。二人天下と分ち取ん片時もしとげといぬととるまよる。路次の人民と擄掠し。在る所まよる火とほけと。塵とまよる遺まよる。追蒐る揚奉董兼まよるを聞と敵長途と急

いさ来りて馬まよるはとるたたらん。蹴ちしてととる東潤といぬと計と生ととる賊の勢と大と戦ふ。李催郭記二人相戦ととる。此まよる日と送らる官軍まよる。かまよる。まよるに備へを立と。大將と戦ふ。大軍ととるまよる。まよる日間ととる。只の打混の軍ととる。相蒐りまよる。官軍の小勢かまよる。我ホの勢かまよる。まよる勝まよる。まよる。李催まよる。郭記右まよる。まよる。野と掩て戦ふまよる。揚奉董兼二手まよる。命と限りと戦ふまよる。勢かまよる。遂まよる。残りまよる。天子皇后といぬと車まよる。侍衛官官あまよる。東まよる。あまよる。と逃まよる。符冊典籍

もさる道路よりとたまたま馬蹄の塵は埋没と去らざる残れ  
兵士の引下りも防ぎ矢はきりり御車とさる立と。陝北の  
方へ落るる途は諸あるまじきよと奏しやせ。いとを河東へ  
勅使と馳て故乃白波師の與黨は李樂韓暹胡才と  
三人ありつと前より罪と宥しむひちやく兵と與しと官軍は力  
とそよすと云はるる。此のあぶむ山賊強盜の張平ありとい  
へども車急るるゆへにやむるをゆるしと口をさるるなり李樂ホ  
天子の罪を宥しめんと聞くと大よよはあび四方の溢せをその  
とあはれり。やがて御迎は馳まひ。李惟郭汜は路をさるる民  
の家と切らしと老弱あるを斬らる。杜るるを「て手下の  
兵士の」と是ホと先返るとと敢死の軍と号し。勢をひひは乗

て追蒐る射は白波師の山賊ども兵を何はめと官軍と  
助るると告げをば是等のその共へ中より山林はあはれり  
居ると怒心熾盛乃溢せをそのなを不怒はあはれり。乱  
れべしと。郭汜士卒は命と衣衣服物の具まんと路く  
よととをせり。李樂韓暹ホは新手の勢を引く。渭陽  
まじりぬるる。安未乃ども。路くよととたる物を見て。たがひはあ  
らとひ取んとと備へむととぐく乱まると。あは李惟郭汜  
大軍四面よりきたる。東り勢あり大山のくばらぐとと  
れは。きんぐに破れを討つと。あはと揚奉董承ひ  
あを先途と戦ふと。叶ふべくも思はざり。御車と扶  
まひと。北國の方へ落るる跡より敵まひく追はれ

楊奉董承  
帝在  
後宋  
人黃河之國



李樂人音あげと曰。事と急なり。天子御馬の口をゆへ。  
 帝御決をなぐ。朕の馬に乗べざるも此内の官人といふんぞ  
 とつら。忍びんと宣まひと跡とかひり。追手の勢ま  
 ぢうく来り。火と掛て喊とほく。李樂取らる。防ぎ  
 戦ふ。大將胡才。敵よからぬと討まわれ。官  
 軍の逐も。揚奉董兼事の急らる。見と。御車  
 とと歩。蹴より。兎角と黄河の岸まぐ。来りま  
 李樂ホも。辺とじり。ありと小舟一艘とたば。出。ま  
 と渡と。天子皇后と乗まらん。前なる岸。あ  
 く。屏風の。峙り。寒気甚と。手足も。さ  
 働くと。帝の伏皇后と手と取と岸の上ま。登りか

へとも。大波天と。の。ん。ん。騰と。く。り。ま。が。舟の  
 ま。も。り。の。か。つ。の。後。の。鼓と打鑼を。ら。敵の  
 勢が。追。来。る。揚奉。大音あげ。馬の。手繩と。ひ。天子の御  
 腰と。縛り。舟へ。ひ。ならん。と。ひ。皇后の兄。伏徳と  
 り。人。お。十。足。の。端と。持。来。り。ま。を。路。ま。ひ。ひ。て。り。を  
 や。く。ら。ま。を。ひ。御腰と。縛。ら。ん。と。ひ。か。を。行。軍。校。尉。尚。弘  
 と。い。か。る。天子と。皇后と。端。ま。ま。ほ。と。舟。の中。へ。は。なる。李  
 樂。人。と。扶。け。乗。自。ら。劍と。抜。舟。の。頭。ま。上。乗。お。ま。を。か。れ  
 この。ぶ。も。が。は。ら。う。ま。泳。ぎ。付。と。乗。ん。ま。を。乗。ま。は。め。と。太。刀  
 薙。刀。ま。と。斬。ま。ら。ひ。の。ま。を。あ。ひ。り。手。を。切。指。と。斬。ま。赤。ま。ま  
 り。と。啼。さ。け。が。御。舟。は。な。く。北。の。岸。ま。着。々。と。揚。奉。氏。の。家



心よほらぶ。猥りも臂と張て公卿大臣と帝の御前とむい  
 る。悪口。打擲とはね。士卒とあはせ。相撲と取。昨日今日ま  
 と神主。醫師とんと。まをた。まをま。二百余人あはせ。杖封  
 封。むもあり。御史と封。むもあり。將軍乃下。更あり。手  
 し。と印と刺。むま。むも及。む。錐とひ。文字と掘。付。其部曲  
 乃章とかな。あ。ひ。濁酒。鹿。飯。る。ん。ご。を。奴婢。持。せ。直  
 天子。献。ま。は。る。帝。の。彼。か。ん。の。背。う。ん。と。も。叶。さ。く。思。し。口。口。を  
 毎事。忍。ん。と。受。め。ひ。り。諸。國。今。年。の。飢。饑。と。百。姓。こ。の  
 東。と。り。草。と。煮。と。命。と。は。ぐ。餓。死。と。も。の。路。と。塞。げ。り。河。内  
 の。太守。張。揚。米。と。肉。と。と。献。ま。り。河。東。の。太守。王。邑。衣。服。少  
 く。献。ま。り。と。帝。の。飢。寒。と。免。れ。と。む。へ。り。董。承。楊。奉

相議。と。人。を。洛陽。と。上。内。裏。と。造。り。と。後。還。幸。あ。り。な。らん  
 と。ひ。な。ま。へ。如。何。思。ひ。ん。李。樂。さ。ら。は。從。ぶ。と。董。承。が。曰。く。洛  
 陽。の。古。く。の。都。あり。是。處。へ。分。内。挾。む。か。と。事。あ。ら。う。と。こ  
 と。洛陽。は。還。幸。あ。り。な。らん。李。樂。い。う。と。と。ん。ふ。你。亦。洛陽  
 よ。と。回。ま。と。是。處。へ。と。ま。ら。ん。楊。奉。董。承。兎。角。の。問  
 答。も。の。ら。を。御。車。と。守。護。し。と。や。ぐ。と。打。立。た。ま。ふ。李。樂。は。俄  
 う。と。變。じ。と。李。催。郭。汜。は。内。應。し。天子。と。奪。ん。と。巧。こ。なる。  
 楊。奉。董。承。の。意。と。推。し。と。御。車。と。を。や。精。兵。と。後。陣。は。備  
 と。其。関。乃。関。と。と。え。ん。と。と。あ。は。夜。も。四。更。乃。の。ら。と。と。と。  
 後。より。追。手。の。勢。を。せ。束。り。其。車。と。止。め。よ。李。催。郭。汜。の。ら。と。と。  
 と。聲。と。呼。り。と。帝。と。と。め。な。り。諸。人。膽。を。消。し。と。怖。ま

ままのまゝ。まゝ山の上より火をほけり。喊の聲四方よりあがりなす。揚奉トクハ何条李催郭記。是とらるる。雨々べき。是のい  
 ころ李樂が詐りてある。人其奴原のく平痛  
 めて蹴ちらせとく。徐晃と真先。まらき  
 乗と荒出鎧と燃て戦ふと見へら。徐晃大なる斧と舞  
 と馬より下は斬て落し。李樂二はぬと失り。あき  
 より路ひらけ。関所を御通りあり。其関の太守張揚  
 絹帛糧食と捧げ。軹道まじ。御迎ふ。弛泰ら。帝殿感あ  
 り。大司馬は封し。ひひを張揚恩と謝し。野王  
 といふ。この後。御車と駐り。

繪本通俗三國志初編卷之九終

